

都市再生整備計画 事後評価シート
大仙市刈和野地区

令和5年3月

秋田県大仙市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	秋田県大仙市	市町村名	大仙市	地区名	大仙市刈和野地区			面積	37.8
交付期間	令和元年度から令和3年度	事後評価実施時期	令和4年度	交付対象事業費	882.5	国費率	0.433		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	基幹事業	地域生活基盤施設(情報板):案内板 高次都市施設(地域交流センター):(仮称)大綱交流館整備事業							
	提案事業	地域創造支援事業:刈和野大綱展示場改築事業、まち歩き観光交流促進事業、「刈和野の大綱引き」伝統継承事業 事業活用調査:アンケート調査 まちづくり活動推進事業:体験プログラム企画運営事業、地域資源活用にぎわい創出事業							
			事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし						
		提案事業	地域創造支援事業:まち歩き観光交流促進事業、事業活用調査:アンケート調査 まちづくり活動推進事業:地域資源活用にぎわい創出事業	新型コロナウイルスの感染拡大の影響からイベントが出来なかったため。			イベントが出来なかったため、刈和野の大綱引き関連イベント参加者数の増加につながらなかった		
新たに追加した事業	基幹事業	なし							
	提案事業	なし							
交付期間の変更	当初	令和元年度～令和3年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-			
	変更								

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	大綱交流館利用者数	人/年	21,952	H29	30,000	R3	-	10.621	△	あり なし ●	ニーズに合致した活動拠点が整備され、利用は増加傾向。コロナの利用制限あり。	令和6年4月
指標2	地域活性化に関する地域住民満足度	5段階評価	3.09	H29	3.50	R3	-	3.18	△	あり なし ●	大綱交流館や展示場が整備され、住民の期待に添えた。	令和6年6月
指標3	刈和野の大綱引き関連イベント参加者数	人/年	7,858	H29	12,058	R3	-	1,521	×	あり なし ●	関連イベントは実施したが、多数の参加者を見込める行事が中止となった。	令和6年4月
指標4										あり なし		
指標5										あり なし		

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1												
その他の数値指標2												
その他の数値指標3												

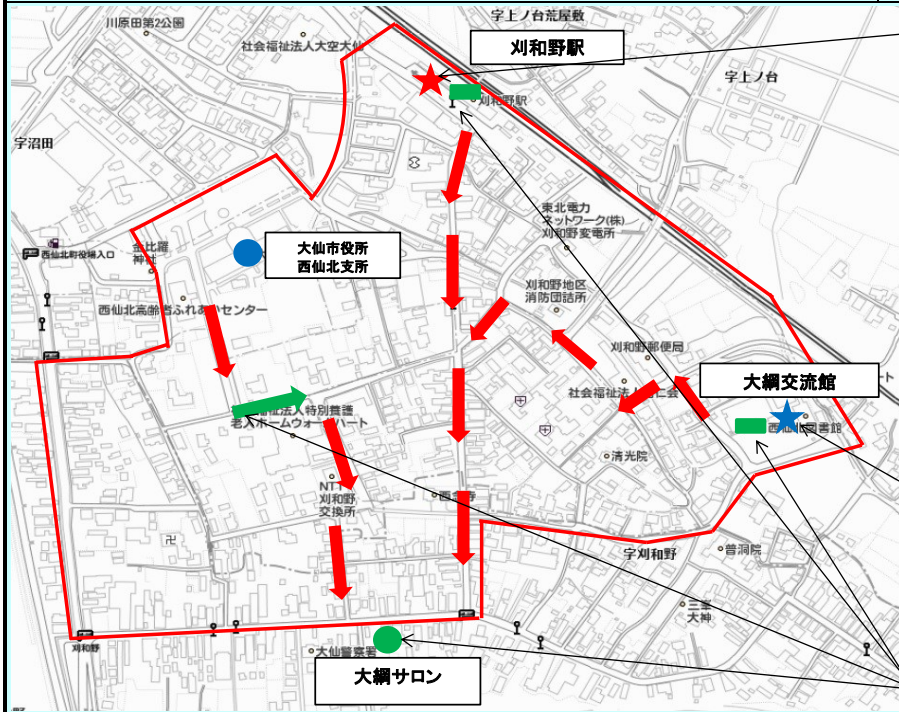
4)定性的な効果発現状況 ○市外からオフシーズンに観光を目的として大綱交流館へ来館される方や団体が増えており、大綱交流館や展示場を経由して温泉施設を利用するなど、複数施設にまたがって事業効果の波及が見られる。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等	
モニタリング			都市再生整備計画に記載し、実施できた			
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			
住民参加プロセス	○大綱交流館の整備にあたり、基本構想や基本計画、実施設計に反映できるよう、地域住民とワークショップや協議を実施。 ○展示場に飾る大綱の製作や展示作業を住民と連携して実施。		都市再生整備計画に記載し、実施できた		○	より一層の活性化に繋げるには住民主体の活動や積極的な事業への参加が必要であり、組織づくりやその支援に取り組む必要がある。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			
持続的なまちづくり体制の構築	○保存会活動の拠点となる伝承館を整備。体験学習や講話が行われ、後継者育成に向けた取り組みを実施するなど地域振興を担う保存会の強化に繋がっている。		都市再生整備計画に記載し、実施できた		○	行事の開催や地区の振興を担う保存会を今後も維持し、組織の強化を図ることは、地域の活性化に不可欠であり、持続的なまちづくり体制の構築に繋がることから、継続した支援や協力が必要である。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			

様式2-2 地区の概要

大仙市刈和野地区(秋田県大仙市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標：地域伝統行事の継承・活用と文化・活動・交流の拠点整備による地域の活性化と交流の推進 目標①：地域住民の活動・交流を促進し、地域の活性化を図る。 目標②：地域の伝統行事や文化イベント等と連携したにぎわい創出と回遊性の向上を図り、交流を推進する。	大綱交流館の年間利用者数	単位:人/年	21,952 H29	30,000 R3	10.621 R3
	地域活性化に関する地域住民満足度	単位:5段階評価	3.09 H29	3.50 R3	3.18 R3
	刈和野の大綱引き関連イベント参加者数	単位:人/年	7,858 H29	12,058 R3	1,521 R3
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H



★提案事業 地域創造支援事業
刈和野大綱展示場改築事業 (A=156㎡)
 老朽化が著しい展示場を更新。沿線にある立地を生かした施設とすることで、行事のPR効果の向上と回遊スポットとして地区の観光力向上を促進する。

整備前

整備後

★基幹事業 高次都市施設
(仮称) 大綱交流館整備事業 (A=2,418㎡)
 人口減少や長寿社会といった地域の実情に沿ったダウンサイジングを図りつつ、地域コミュニティ活動及び交流と伝統行事の継承活動を促進する。

整備前

整備後

■基幹事業 地域生活基盤施設
案内サイン等設置事業
 観光案内板等を設置し、回遊性の向上やまちなか歩きを促進。

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民が活動及び交流を行う拠点が整備され、生涯学習活動の促進に繋がっているほか、フリーマーケットなどの催しが開催されるなど、地域活性化に繋がるイベントも開催されるようになった。 ○観光拠点となる施設等が整備され、観光オフシーズンにもかかわらず市外から観光客や団体が訪れるなど、交流人口の増加やまちなかの回遊がみられるようになった。また、大綱交流館や展示場から近郊の温泉施設を利用される方も多くみられ、地区内における観光コースが確立されつつある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<p>来館者を対象として、「刈和野の大綱引き」のガイドや上映会を行い、行事のPR活動を積極的に実施していくとともに、地域住民の活動や交流の拠点として、充実したイベントや事業を実施し、魅力ある施設づくりを行っていく。</p> <p>また、地区全体をより活性化させるため、大綱展示場など関連施設とともに地元商店や宿泊施設のPRや事業連携に向けた取り組みを検討し、更なる交流人口の増加やまちなかの回遊向上をはかる。</p>

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	案内板	5.2	N=6基	3.1	N=5基	2基予定していた誘導用看板を1基に統一し、また設置個所の状況に応じた形状、大きさに変更した	影響なし	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設	(仮称)大綱交流館整備事業(生涯学習施設)	791.6	A=1,976.90㎡	793	A=2,418.3㎡	実施設計の完了に伴い事業費と延べ床面積が増加	影響なし	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	事後評価	あり	なし		
指標1	大綱交流館利用者数	人/年		21,952	H29	30,000	R3	モニタリング			モニタリング			●
								事後評価	確定見込み ●	10,621	事後評価	△		
指標2	地域活性化に関する地域住民満足度	5段階評価		3.09	H29	3.50	R3	モニタリング			モニタリング			●
								事後評価	確定見込み ●	3.18	事後評価	△		
指標3	刈和野の大綱引き関連イベント参加者数	人/年		7,858	H29	12,058	R3	モニタリング			モニタリング			●
								事後評価	確定見込み ●	1,521	事後評価	×		
指標4								モニタリング			モニタリング			
								事後評価	確定見込み		事後評価			
指標5								モニタリング			モニタリング			
								事後評価	確定見込み		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	新型コロナウイルスの感染拡大防止対策のため、施設利用者数の制限や活動の自粛、イベントの中止や規模縮小を余儀なくされたことから、従前値の半分程度の利用者数となった。目標は達成出来なかったが、令和2年度に比べ令和3年度は利用制限が緩和されたこともあり、利用者は増加してきている。	新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、施設の利用制限や利用者の自粛などにより、大綱交流館の利用者数が減少するため、感染拡大前と比較するのは難しい。
指標2	令和2年度は、交流をとまなう事業が全て中止され、満足度も例年並みであったが、令和3年度は展示場の整備や大綱米プロジェクトなどの事業が規模を縮小ながらも実施することができたことから、目標には届かなかったものの満足度を上げる要因となったと考えられる。	市民を対象とした市政評価アンケートにより、3.09(H29)に対し、3.18(R3)と満足度が上がっている。
指標3	大綱米プロジェクトなど、事業効果を得られる取り組みを行ったが、多数の参加を見込める「刈和野の大綱引き」行事が中止となったため、関連イベントのみの参加者数となった。	新型コロナウイルスの感染拡大をうけ、行事は2年連続中止している。
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度				
その他の 数値指標1							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標2							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		
その他の 数値指標3							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

○市外からオフシーズンに観光を目的として大綱交流館へ来館される方や団体が増えており、大綱交流館や展示場を経由して近郊の温泉施設を利用するなど、複数施設にまたがって事業効果の波及が見られる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
大綱交流館の整備にあたり、基本構想や基本計画、実施設計に反映出来るよう、地域住民によるワークショップや協議を実施。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 平成26年9～11月 計3回 改築検討委員会を開催し、住民の意見や要望を聴取した。	より一層地区の活性化に繋げるには住民主体の活動や積極的な事業への参画が不可欠であり、組織づくりやその支援に取り組む必要がある。
展示場に飾る大綱の製作や展示作業を住民と連携して実施。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 令和3年1～3月実施 全長34mの大綱を保存会を中心に地元中高生の協力を得て製作。 3月の展示作業では、保存会、市の職員、地元の有志や企業の協力のもと、搬入及び展示を実施。	

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
児童生徒を対象とした、ぐみ編み(藁と藁を結って繋ぐ作業で、ぐみを束ねたものが大綱となる)体験学習や大綱講話を開催し、後継者育成を図る取り組みや、課題である稲わらの確保を目的とした大綱米プロジェクトを実施。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● ○体験学習及び大綱講話 令和2～3年 12月～2月 計6回実施 対象:あおぞらこども園児、西仙北小の児童、西仙北中の生徒 ○大綱米プロジェクト(令和3年5月より) 地元の小中高生参加	刈和野大綱引保存会	行事の開催や地区の振興を担う保存会を今後も維持し、組織の強化を図ることは、地域の活性化に不可欠であり、持続的なまちづくり体制の構築に繋がることから、継続した支援や協力が必要である。
刈和野大綱引保存会の活動拠点となる、大綱の里伝承館を整備した。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● 令和2年10月 オープン 奉納用のミニ綱の製作やぐみ編み体験の会場として使用		

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の関係課所による組織	西仙北支所地域活性化推進室・市民サービス課、建設部都市管理課、教育委員会事務局生涯学習課、大綱交流館	令和4年12月5日	教育委員会事務局生涯学習課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○		指標○		指標○		指標○	
指標名									
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業									
提案事業									
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- －：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用				
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標〇										
指標名		大綱交流館利用者数			地域活性化に関する地域住民満足度			刈和野の大綱引き関連イベント参加者数													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類								
基幹事業	案内板整備事業	○	大綱交流館は地区のニーズに合致した設備を備え、利便性が大きく向上しており、市民による市政評価にて利用者の満足度も非常に高いが、新型コロナウイルスの感染拡大をうけ、利用者の制限やイベントの縮小中止により、施設を十分に活用することが出来ず、利用者の増加に繋がることができなかった。	分類Ⅲ	—	地区を活性化させる中心施設として大綱交流館が整備されたほか、待ち望んでいた展示場も改築され、それらの施設を中心に賑わいが生まれ、まちなかの回遊に繋がっている。話題づくりに繋がる事業を行うなど、活性化を図っているが、さらに取り組みの強化が必要である。	分類Ⅲ	—	コロナ禍での事業実施となったため、規模を縮小するなどして、関連イベント参加者数の増加に努めたが、刈和野の大綱引き行事が中止となったため、参加者の増加に繋げることができなかった。	分類Ⅲ											
	大綱交流館整備事業	◎			◎			○													
提案事業	刈和野大綱展示場改築事業	○						◎						—		△					
	「刈和野の大綱引き」伝統継承事業	△						—						△							
	体験プログラム企画運営事業	○						◎						○							
関連事業	大綱交流サロン改築事業	○						—						—		—					
	「刈和野の大綱引き」映像上映事業	△						—						—							

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能ない要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能ない要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能ない要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能ない要因。

改善の方針 (記入は必須)	地域住民の活動や交流の拠点として、イベントや事業の実施に努めるとともに、展示場などの関連施設と相乗効果を図りながら利用者の増加に繋げていく。また、行事「刈和野の大綱引き」のPRに努め、市外からの来館者を対象とした、ガイドや上映会を実施するなど、魅力ある施設づくりを進めていく。	事業効果の高い取り組みを今後も継続して実施していくとともに、地区の活性化に繋がる事業に取り組む。また、まちなかの回遊を促進させるため、地元商店や宿泊施設の紹介や連携に向けた取り組みを行い、地区全体の活性化に繋げていく。	大綱引き行事参加者への事業効果を現段階で評価するのは難しく、今後、同行事が開催された際に各事業の効果を検証するとともに、新たな関連イベントの企画、実施など、参加者の増加に繋げていく。
------------------	--	---	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の関係課所による組織	西仙北支所地域活性化推進室・市民サービス課、建設部都市管理課、教育委員会事務局生涯学習課、大綱交流館	令和4年12月5日	教育委員会事務局生涯学習課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
既存の西仙北中央公民館は、建築から40年が経過し老朽化が顕著となってきたことや利便性が低下していることに加え、早急に耐震補強等の対策が必要となっている。	大綱交流館はエレベーターやバリアフリーを備えるなど、利便性が大きく向上しているほか、多目的トイレやWIFI環境が整っているなど、住民が安全・安心に使用できる施設となっている。		
西仙北中央公民館及びその敷地は近隣3町内の災害時避難施設(収容人員1,300人)に指定されていることから、利用者の安全確保や避難施設としての機能強化を図る必要がある。	大綱ホールをはじめ、研修室や会議室など、住民の避難スペースを確保しているほか、自家発電設備や災害備蓄品を備えており、災害時の避難施設として十分な役割を果たせる施設となっている。		
当該地区で行われている伝統行事「刈和野の大綱引き」は、運営に係わる人材が年々減少してきており、行事の維持・継承が懸念される状況にある。	行事を伝える講演会や体験教室、大綱米プロジェクトは、次世代の後継者育成や行事の維持に繋がる取り組みであり、行事開催に欠かせない稲わらも一定量確保できている。今後も継続して取り組んでいく必要がある。		
都市計画マスタープランにおいて、地域拠点として位置づけられている地区であることから、都市機能の更新と機能集約を進める必要がある。	地域拠点として大綱交流館や関連施設が整備され、都市機能の更新が図られた。同地区にある老朽化した公共施設の廃止を行い、機能集約を進めている。(同地区内にある公共施設を令和5年3月末に廃止予定)		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	地区の活性化を更に拡大する取り組み	地区の更なる活性化を図るため、大綱交流館を拠点としたイベントや事業の実施、関連施設を有効活用した観光力の強化に取り組む。また、地元の商店や宿泊施設と連携し、まちなかの活用や回遊を促進させ、地区全体の活性化に繋げていく取り組みが必要である。こうした取り組みには、住民主体の活動や積極的な参加が必要であり、組織づくりやその支援をしていく必要がある。	○大綱交流館を拠点とした、地域まつりの開催 ○若者や女性のコミュニティ形成を目的とした「にしせんワークショップ」事業
	「刈和野の大綱引き」行事の維持や後継者育成への活動や取り組みの継続	10年、20年先の将来を見据えた、継続的な後継者育成の取り組みが不可欠である。これまで実施してきた学校での地域学習や作業への参加を継続して行うとともに、大綱米プロジェクトや保存会による講演会の実施など、児童生徒が地域行事に触れる機会をより多く提供することが必要である。また、児童生徒の行事への参画や女性の行事への参加など、運営の見直しや人材の発掘、育成にも注力した活動が必要である。	○大綱米プロジェクト ○大綱講演会 ○ぐみ編み(大綱を製作する過程の作業)体験教室 ○中高生と連携した地域の魅力発信PR活動

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策			

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	大綱交流館利用者数	人/年	21,952	H29	30,000	R3	確定 ●	10,621	△	あり	→	令和6年4月	令和5年4月から令和6年3月までの大綱交流館及び大綱の里伝承館の利用者数	地域活性化を図る事業と連携した取組を新たに行う予定
							見込み			なし ●				
指標2	地域活性化に関する地域住民満足度	5段階評価	3.09	H29	3.50	R3	確定 ●	3.18	△	あり	→	令和6年6月	市民による市政評価 地域活性化に関する地域住民満足度	
							見込み			なし ●				
指標3	刈和野の大綱引き関連イベント参加者数	人/年	7,858	H29	12,058	R3	確定 ●	1,521	×	あり	→	令和6年4月	令和5年度の刈和野大綱引き及び関連イベントの参加者数	行事の開催有無による
							見込み			なし ●				
指標4				H		H	確定			あり	→			
							見込み			なし				
指標5				H		H	確定			あり	→			
							見込み			なし				
その他の数値指標1				H	/		確定				→			
その他の数値指標2				H			確定				→			
							見込み							
その他の数値指標3				H			確定				→			
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		複数の数値目標を設定することで、多角的な視点から成果を確認でき、事業効果や達成状況の把握、目標や事業の見直しに繋げることができる。
	うまくいかなかった点	大綱交流館や展示場の整備とともに、相乗効果を期待したソフト事業を実施し、交流人口等の増加や地区の活性化を図ったが、新型コロナウイルスの感染拡大をうけ、利用者制限や中止したイベントもあったことから、数値目標とした大綱交流館の利用者数や関連行事参加者数に届かなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		外的要因の影響を受けにくい数値目標の設定が必要である。
	うまくいかなかった点	合理的な目標を設定し、地域の課題解決に適した事業を計画実施し、地区住民の交流や活動拠点の整備、伝統行事の保存継承に繋がる活動の創出など、目標に掲げた課題の解決には至っていないもの、数値目標を十分に達成できなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	大綱交流館の整備にあたり、基本構想や基本計画の策定過程で、地域住民が参加するワークショップや協議を行い、アイデアや意見を取り入れた施設を整備することが出来たほか、大綱の製作や展示作業へ住民が参加することにより、地区への愛着やまちづくりに対する意識の醸成に大きな効果があった。	地区住民のニーズに合致したまちづくりや事業の推進には住民の意見や参加が必要不可欠である。また、多くの住民がまちづくりや地区の課題に関心を持てる機会とし、自ら積極的に活動や参加できる環境を整える必要がある。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		大綱米プロジェクトは本事業完了後である令和4年度も継続して実施しており、感染防止対策など実施後の検証を生かすことで、計画した事業を完遂している。実施事業の効果や目標の達成状況を把握し、検証や事業の見直しを行うことは事業を成功させる重要な手段であるため、実施すべきである。
	うまくいかなかった点	継続事業として計画していた大綱米プロジェクトや提灯絵付け体験において、初年度は新型コロナウイルスの感染拡大により事業を中止している。コロナ渦での事業2年目の実施を見据え、事業内容の見直しや感染拡大防止の対応等の検討を行っているが、単年のみの事業実施となったことから、事業計画期間内での実施後検証には至らなかった。	
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

次期計画は未定

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに掲載	令和5年1月23日(月)～ 令和5年2月 3日(金)	同左	生涯学習課へ郵送、 FAX、窓口での意見書 の提出	大仙市教育委員会事 務局生涯学習課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	生涯学習課・大綱交流館窓口 にて閲覧	令和5年1月23日(月)～ 令和5年2月 3日(金)	同左		

住民の意見	
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	刈和野大綱引保存会 会長 今野 幸宏	令和5年2月15日	大仙市教育委員会事務局生涯学習課	大仙市刈和野地区都市再生整備計画事業の事後評価に伴う意見聴取実施要領	独自に設置
その他の委員	大仙市商工会 会長 平瀬 孝志 西仙北地域協議会 会長 今田 秀俊 刈和野地区町内会長連絡協議会 会長 金 啓一				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って事後評価が適正に実施された。
	成果の評価	・指標の評価は妥当である。 ・歩行者通行量について、交流館等と商店街との連携を強化し、更なる増加に取組から賑わいを創出していただきたい。
	実施過程の評価	・評価は妥当である。
	効果発現要因の整理	・整理された内容は適切である。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表は適正に公表された。
	その他	
今後のまちづくりについて審議	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当である。
	今後のまちづくり方策の作成	・500年以上続く国指定重要無形民俗文化財「刈和野の大綱引き」のブランド力を最大限に活かした、通年通じた交流人口の拡大に向けた取り組みを進めていただきたい。 ・行政や民間事業者を巻き込んだ会議を開催し、展示館や交流館などを起点とした回遊ルートを検討していただきたい。賑わいを創出していただきたい。 ・当該地区の地域拠点に充実した施設が整備され、地域住民が利用しやすく、伝統文化活動も推進できることから、課題に挙げられているように、人口減少に伴う次代を担う人材育成を中心とした事業の展開が必要である。 ・伝統のある綱引き行事を若者に引継ぎ、伝承していく事業もしっかりしており、作成については、良く評価できる。
	フォローアップ	
	その他	
今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当である。	
その他		・施設を利用した年間の顧客を誘致するため、「綱引き案内人」の育成も必要ではないかと思う。 ・大綱交流館及び大綱の里伝承館のハード面が整備されたので、今後は施設を活用したソフト面の構築を検討する必要がある。 ・大綱ホール横に着替えができるスペースを確保。

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画

だいせんし かりわの
大仙市刈和野地区

あきた だいせんし
秋田県 大仙市

令和3年7月

事業名	確認
都市構造再編集支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	秋田県	市町村名	大仙市	地区名	刈和野地区	面積	37.8	ha
-------	-----	------	-----	-----	-------	----	------	----

計画期間	令和 1 年度 ~ 令和 3 年度	交付期間	令和 1 年度 ~ 令和 3 年度
------	-------------------	------	-------------------

目標

大目標：地域伝統行事の継承・活用と文化・活動・交流の拠点整備による地域の活性化と交流の推進

目標①：地域住民の活動・交流を促進し、地域の活性化を図る。

目標②：地域の伝統行事や文化イベント等と連携したにぎわい創出と回遊性の向上を図り、交流を推進する。

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 ・本市は、平成17年3月に8市町村が合併して誕生し、市域は866.7km²と広大になったものの、人口は平成17年の93,352人から平成27年には82,783人と減少の一途をたどっており、道路や水道のインフラの維持等に支障を来すことが懸念されている。
 ・このような中、大仙市都市計画マスタープランでは、大曲駅周辺を本市の中核拠点として定めるとともに、合併前の旧市町村において中心となっていた地区を地域拠点として位置づけ、点と軸によるネットワークの形成により持続可能な都市経営を目指すこととしている。平成29年3月には大仙市立地適正化計画を策定し、「まちなか」のにぎわい創出、人口密度の維持、生活サービス施設の適正な配置及び公共交通の充実に向けたまちづくりの基本方針を設定している。
 ・立地適正化計画の中で市役所庁舎や公民館、図書館等を都市機能誘導施設とし、公共施設の集約・複合化や効果的な配置により各種サービスの効率的な提供を行うことで、持続可能な都市の実現を目指している。また、その他の公共施設についても用途に応じて都市機能誘導区域内への立地を検討している。

まちづくりの経緯及び現況

・刈和野地区は、西仙北地域の地域拠点として位置づけられている。平成29年3月に策定した立地適正化計画では、同地区に居住誘導区域及び都市機能誘導区域が定められており、誘導施設として公民館が位置づけられている。
 ・同地区にある既存公民館は、昭和54年に建設され、地域の文化・活動・交流の拠点として利用されてきたが、建築から40年が経過し老朽化が顕著となってきたことや、平成19年度に実施した耐震診断では、早急に耐震補強等の対策が必要であるとの診断がなされていることに加え、3階建ての施設であるにもかかわらずエレベーターが設置されていない、土足に対応していないなど、利用者や地域団体から改善の要望がなされたことから、平成26年9月から民間団体の代表などから成る改築検討委員会において改築に関する検討を進めてきた。
 ・また、同地区では、500年余りの伝統を誇る国内最大級の大綱として、当市で唯一国の指定重要無形民俗文化財に指定されている「刈和野の大綱引き」が地域の伝統行事として広く知られているが、人口減少や地域コミュニティの希薄化、生活スタイルの変化に伴い運営に携わる人材が年々減少してきており、行事の維持・継承が懸念される状況にある。
 ・同行事は、誰でも自由に参加できるが、それは主に綱引き当日だけであり、当日以外は浮嶋神社に奉納された大綱や刈和野大綱展示場(JR刈和野駅前)に展示されている大綱を見学する程度しかできない状況にあることから、運営団体である刈和野大綱引保存会からは、人材確保と後継者育成、伝統行事の継承に加え、地域資源を活かした通年観光化による地域活性化について要望がなされている。
 ・「刈和野の大綱引き」の保存継承を図るため、地域では小中学生及び高校生が綱づくりや当日の行事に参加するなど、文化の継承と後継者の育成に力を入れている。また、大綱引き当日を盛り上げようと、行政と西仙北地域の民間企業や団体が協働し平成27年からイベントを行うとともに、平成29年には中学生が主体となり、缶バッジの製作・販売を行うなど、地域の伝統文化に対する意識が高まってきている。
 ・同様の伝統的な大綱引き文化のある韓国唐津(タンジン)市とは、平成19年に友好交流都市として交流をはじめ、これまで綱引き行事を通じた文化、行政間、青少年、スポーツ交流を行い、平成29年で10周年を迎えた。これを機に、相互理解を深め、民間主導による交流を促進するため、経済交流会議を開催するなど更なる交流を深めることとしている。

課題

・既存の西仙北中央公民館は、建築から40年が経過し老朽化が顕著となってきたことや利便性が低下していることに加え、早急に耐震補強等の対策が必要となっている。
 ・また、同館及びその敷地は近隣3町内の災害時避難施設(収容人員1,300人)に指定されていることから、利用者の安全確保や避難施設としての機能強化を図る必要がある。
 ・当該地区で行われている伝統行事「刈和野の大綱引き」は、運営に係わる人材が年々減少してきており、行事の維持・継承が懸念される状況にある。
 ・都市計画マスタープランにおいて、地域拠点として位置づけられている地区であることから、都市機能の更新と機能集約を進める必要がある。

将来ビジョン(中長期)

【総合計画】

・第2次大仙市総合計画基本構想(H28.3)では、市街地の整備について、市街地の低密度な拡散を回避し、機能集約を図った集約型都市構造の実現に向けた適正な都市計画の推進を目指すこととしている。
 ・また、地域社会の維持・活性化について、各種生活サービスや地域住民同士のコミュニケーションや交流をつなぎ、集落地域の暮らしの安全・安心を守る小さな拠点の形成を目指すこととし、生涯学習・子育て・防災・世代間交流の4つの分野に係る機能を担う複合型施設の整備に取り組むこととしている。
 ・さらには、同構想地域振興計画では、刈和野地区を含む西仙北地域の目指すべき地域像として「伝統文化の継承による活気あるまちづくりと地域住民がともに支え合う地域」を掲げ、伝統文化や地域行事を活用した活気ある地域づくりを目指すこととしている。
 ・都市計画マスタープラン(H21.7)では、機能集約を図るべき「拠点」を明確にするるとともに、「軸」によるネットワークの形成により、持続的な都市経営の実現を目指すこととしており、大曲駅周辺を市の中核拠点として、また、大曲地域を除く7地域の支所・駅周辺を地域拠点として位置づけ、行政機能や交通結節機能、文化教育、医療・福祉、商業等の機能を維持、強化することとしている。
 ・地域コミュニティ活動拠点形成ビジョン(H28.3)では、大曲地域を除く7地域の支所周辺を地域コミュニティ活動拠点とし、地域道路や鉄道、土地利用に配慮しながら施設などの整備を計画していくこととしている。

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

・大曲駅周辺を本市の中核拠点として位置づけ、経済・交流等の市民活動や観光等の拠点となる「都市の顔」を形成するとともに、合併前の旧市町村において中心となっていた地区を地域拠点として位置づけ、「地域の顔」として行政・文化教育・医療福祉・商業(主に日用品)等の機能を維持・強化することで、合併以前の8地域が連携した都市構造を目指している。
 ・その中で、鉄道駅などの交通結節点に近接し周辺からアクセスしやすく、生活利便施設が集積している区域を都市機能誘導区域とし、適切な都市機能増進施設の立地を必要な区域に誘導することにより、住宅立地の適正化を図っている。地域拠点である刈和野地区は都市機能誘導区域として、既存の生活利便施設の維持を図るとともに、市民のさらなる生活環境向上に向けた都市機能増進施設の誘導を図ることとしている。
 ・また、都市機能誘導施設については国土交通省の手引きの考え方を踏まえつつ、地域の特性や利樹農の立地状況等を考慮した上で独自の位置づけを行っており、刈和野地区の誘導施設に関しては地域の現状を踏まえた上で、行政機能として市役所支所、介護福祉機能として地域包括支援センター・高齢者相談施設・健康増進施設・サービス付き高齢者向け住宅、子育て支援機能として子育て支援拠点施設、教育・文化機能として基幹公民館・図書館を設定している。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

・刈和野地区で誘導施設として設定されている基幹公民館として「大綱交流館」を整備する。
 ・整備から40年が経過している既存生涯学習施設を更新し、都市施設としての機能の更新・強化を図るとともに、地域コミュニティ活動や住民同士の交流を促進し、地域の活性化を図る。
 ・また、地域の伝統行事である「刈和野の大綱引き」に関する展示コーナー及び作業棟を整備し、歴史や大綱の製作過程、綱引き作業や大綱引き当日の行事の様子、国外の友好交流都市で行われている綱引き行事などを紹介するとともに、大綱製作に合わせ、実際に作業体験ができる施設として整備し、伝統行事の継承と活用を図る。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等
 予定なし

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
大綱交流館利用者数	人／年	大綱交流館の年間利用者数	地域コミュニティ活動・交流の拠点整備による活動・交流人口の推移を示す指標として、大綱交流館の年間利用者数を指標とする。	21,952	H29	30,000 R3
地域活性化に関する地域住民満足度	5段階評価	地域活性化に関する地域住民の満足度	地域の活性化を目標としていることから、地域活性化に対する地域住民の満足度を指標とする。	3.09	H29	3.50 R3
刈和野の大綱引き関連イベント参加者数	人／年	刈和野の大綱引き及び関連するイベントへの参加者数	地域の伝統行事等と連携したにぎわい創出を測る指標として、刈和野の大綱引き関連イベントへの参加者数を指標とする。	7,858	H29	12,058 R3

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【大綱交流館の整備により、地域住民が活動・交流する場を創出する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備から40年が経過している既存生涯学習施設を更新し、都市施設としての機能の更新・強化を図るとともに、地域コミュニティ活動や住民同士の交流を促進し、地域の活性化を図る。 ・展示コーナー及び作業棟では、綱引きの歴史や大綱の製作過程、網飾り作業や大綱引き当日の行事の様子、国外の友好交流都市で行われている綱引き行事などを紹介するとともに、大綱製作に合わせ、実際に作業体験ができる施設として整備し、刈和野大綱引保存会と連携しながら伝統行事の継承と活用を図る。 ・地域行事や地域資源を活用した地域住民が主役となるソフト事業を企画、実施し、地域住民が主体的にまちづくりに取り組む環境を創出する。 ・関連事業として、大綱引き会場に面する大綱交流サロンを改築し、綱引き当日には観覧場として、当日以外は大綱交流館のサテライト施設として利用を促進し、地域住民の活動・交流の機会を創出する。 ・また、園児や小学生を対象とした読み聞かせ教室など隣接する図書館との連携を継続し、利用者の利便性を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大綱交流館整備事業(基幹事業／高次都市施設:地域交流センター) ○「刈和野の大綱引き」伝統継承事業(提案事業／地域創造支援事業) ・大綱交流サロン改築事業(関連事業／市)
<p>【地域の伝統行事や文化イベント等と連携した回遊性の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統一性のある観光案内板の設置や街灯に添架されている案内板のデザイン更新により、まちなかの景観形成と回遊性向上を図る。 ・関連事業として大綱交流サロンの改築を実施し、来訪者の休憩スペース、イベントの開催、綱引きに関する資料展示など交流、滞留の場を創出し、ホスピタリティの向上を図る。 ・JR刈和野駅前であり、地域のシンボルである原寸大の大綱を展示している刈和野大綱展示場を改築し、地域の伝統行事である国内最大級の大綱引きのPR効果を高めるとともに、実際に触れることができる展示方法とし、刈和野駅を起点としたまちなか回遊を促進する。 ・また、地域の団体や中学校と連携しながらまちの魅力向上に務めるとともに、地域の伝統行事を核とするソフト事業を企画、運営し、伝統行事の維持、継承を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○案内板整備事業(基幹事業／地域生活基盤施設:情報板) ○大綱交流館整備事業(基幹事業／高次都市施設:地域交流センター) ○刈和野大綱展示場改築事業(提案事業／地域創造支援事業) ○体験プログラム企画運営事業(提案事業／まちづくり活動推進事業) ・大綱交流サロン改築事業(関連事業／市) ・「刈和野の大綱引き」映像上映事業(関連事業／市)
<p>その他</p>	
<p>【事業終了後の継続的なまちづくり活動】 本地区では、伝統行事の継承とまちづくりへの活用の検討がなされてきたことに加え、中学生から発信された新たな取り組みがきっかけとなり、まちづくりへの関心が高まっていることから、関係者間の連携・連絡を図りながら引き続きまちづくりを推進する。</p> <p>【交付期間中の計画の管理について】 交付期間中において各種事業を円滑に進めるため、庁内での調整・連携体制を確保するとともに、西仙北地域協議会において事業の進行管理、評価を行う。また、都市再生整備計画書や計画概要等を市のホームページで公開する。</p>	

